

(外交防衛委員会)

所得に対する租税に関する二重課税の除去並びに脱税及び租税回避の防止のための日本国とウ

ルグアイ東方共和国との間の条約の締結について承認を求めるの件(閣条第七号) (衆議院送

付) 要旨

この条約は、人的交流及び経済的交流に伴って発生する国際的な二重課税の除去を目的として、我が国とウルグアイとの間で課税権を調整するものであり、二〇一九年(令和元年)九月十三日にモンテビデオで署名されたものである。この条約は、前文、本文三十箇条及び末文並びに条約の不可分の一部を成す議定書から成り、その主な内容は次のとおりである。

- 一、この条約は、一方又は双方の締約国の居住者に対し、所得に対する租税について適用する。
- 二、一方の締約国の企業の事業利得については、当該企業が他方の締約国内に恒久的施設を有する場合に
は、当該恒久的施設に帰せられる利得についてのみ当該他方の締約国において課税することができる。恒
久的施設に帰せられる事業利得の課税対象は、本支店間の内部取引をより厳格に認識して計算する。
- 三、配当、利子及び使用料については、源泉地国において限度税率の範囲で課税することができること又は

免税とすることを規定する。

四、この条約の規定による課税によって生ずる二重課税を居住地国において除去する。

五、この条約の規定に適合しない課税について、権限のある当局に対する申立て及び権限のある当局間での

協議による解決に加え、一定の要件の下における仲裁への付託について規定する。

六、両締約国の権限のある当局間で租税に関する情報を交換する。

七、滞納租税債権一般を対象とする徴収共助の規定を導入し、その実施のための要件、手続等を規定する。

八、この条約の特典の濫用を防止するため、第三国に存在する恒久的施設に帰属する所得について第三国に

おいて課される租税の額が一定の額に満たない場合及び取引等の主要な目的が条約の特典を受けることで

ある場合には条約の特典は与えられない。

九、この条約は、両締約国のそれぞれの法令上の手続に従って承認されるものとし、その承認を通知する外

交上の公文の交換の日の後三十日目の日に効力を生ずる。